

経営者の仕事に向き合う姿勢は、従業員やお客様、さらには事業全体に大きな影響を与えます。

A氏は神奈川県で創業六十五年の洋菓子店を経営しています。

昭和三十四年に祖父が菓子の小売店・卸問屋を創業し、昭和三十九年には喫茶店、レストランを始めます。洋菓子をお客様が求める時代になることを予見し、昭和五十二年にはフランス菓子の製造販売を開業しました。

その後、二代目となる父は「多くのお客様にフランス菓子を召し上がっていただきたい」との思いから、最寄りの駅ビルに当店を請しました。しかし、駅ビルからの要望で当時流行していた京風ラーメン店を出店することになったのです。

京風ラーメン店で実績を残したことから、信頼を得て、フランス菓子販売での出店要請があり、駅ビルに販売店を構えることができました。

現在は県内に十二の販売店を展開しており、手づくりの製法にこだわりながら、約四百名のスタッフとともに働いています。

長男として生まれたA氏は、幼いころから「将来は会社の後継ぎ」と言われ続けてきました。平成十九年に入社後、経験を重ねる度に会社を守ることを、スタッフを守ることに重圧を感じるようになりました。

その後、父の勧めで後継者倫理塾に入塾し、倫理の学びを深めていたある日、塾のスタッフに父からの手紙を渡されたのです。



後継者としての自覚が働き方を変える

手紙には次のような一文がありました。

「私にとって貴方は三人目の子供で、長男として生まれた事で現在の仕事に携わり、責任ある立場を宿命づけられ、それに一生懸命に取り組んでいることに感謝したいと思います」

この手紙を読んだとき、父も分かってくれていたのだ」との安堵感から涙が溢れ、苦勞しながら店を守り続けてきた父への感謝の思いが深まり、「この店を守り抜く」という決意を新たにしました。

そこからA氏の仕事に向き合う姿勢が変わっていきます。出社前には仏壇に手を合わせ「今日も一日、工場のスタッフが機械でケガをしませんように。すべてのスタッフが元気で楽しく働けますように」とスタッフの安全を祈り、出社後は清掃、整理整頓に取り組みました。

またスタッフから提案や要望があった場合には、どのような内容であっても、まず耳を傾け、幹部にも同じようにスタッフの声を受け止めるように伝えました。

令和四年十月に社長に就任。その後も実践を続けたことで、職場の雰囲気は明るくなり、スタッフの定着率が上昇しました。

お客様にはリピーターも増え、販売店の会員カード利用者は三万四千人にものぼり、地域で愛される洋菓子店となっています。

歴史ある洋菓子店の後継者として、仕事の尊さを悟り、使命に燃えて働くとき、その働きは多くの人を喜ばせ、それは自らの喜びへとつながるのです。